

同 志 社 大 学

2013 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2014 年 3 月 19 日提出

所 属	職 名	氏 名
グローバル・コミュニケーション学部	助 教	須 藤 潤
研 究 題 目	日本語音声教育の動機づけと学習者間の協力	
研 究 成 果 の 概 要	<p>上級日本語学習者の音声表現の向上を目的としたシャドーイングの練習の動機づけに注目し、主に練習環境や練習に対する意識、そして、シャドーイングの素材選択が、練習の継続性にどの程度影響があるかどうか、14名の学習者から収集したデータおよび、質問紙の回答により考察を行った。</p> <p>データ分析の結果、練習の継続性に影響が強いと考えられる要素として、シャドーイングのチェックを受ける回数そのものが、成績に反映されることに対する期待が挙げられる。期待が大きい学習者は継続性も高い。それ以外で特徴的であったのは、グループ内でシャドーイングの素材をシェアするかどうかである。練習の継続性が高い学習者には否定的な回答が多かった。</p> <p>「学習者間の協力」が、学習の動機づけを高めると言われているものの、この素材のシェアについては、反対の結果が出た。予想される原因として、学習者間で習熟度や興味・関心が異なるため、少人数のグループ内でのシェアでは、学習を促すほどの効果が現れなかったのではないかと考えられるが、この点については今後の課題としたい。</p>	